



# 羽咋市復興個別計画

## 〔鹿島路町地区〕

令和7年6月  
鹿島路町・羽咋市

# 目 次

1	復興個別計画の概要	1
	（1）復興個別計画とは	1
	（2）復興個別計画の構成	1
2	地区の現状と課題	2
	（1）地区の現状	2
	（2）地区の被災状況及び課題	4
3	復興に向けた取組事項	5
	（1）地区の防災力向上	5
	（2）ハード面の機能強化等	7
	（3）将来を見据えたまちづくり	8
4	各種インフラ復旧に向けた取組等	9
5	資料編	10
	（1）復興個別計画策定手順	10
	（2）ワークショップ実施概要	11
	（3）鹿島路町地区“実行プロジェクト19”	13

# 1 復興個別計画の概要

## (1) 復興個別計画とは

令和6年1月1日午後4時10分に発生した令和6年能登半島地震では、本市においても震度5強（※推定震度6弱）を観測し、市内各地で液状化や家屋の倒壊など甚大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

これを受け本市では、被災者の住まいとくらしの再建、被災地域の復旧・復興、地域経済の再建など、住民が希望と夢をもって安心して住み続けることができるよう、令和6年8月に“羽咋市復興計画”を策定し、各種取組を進めています。

しかしながら、大規模な液状化が発生し、インフラ（道路、上下水道等）に甚大な被害を受けた地区等においては、復旧までに長い期間を要し、「いつになったら元の生活に戻るのか」「このまま住み続けることができるのか」など、地区の将来の姿が見えず、依然として多くの住民の方が不安を抱えながら生活しています。

このため、地区の実情に応じた、将来にわたってお住まいの地区に住み続けるための将来展望や、この実現に向けた地区の防災力向上等の優先すべき取組、インフラの復旧スケジュール等を明確にした“復興個別計画”を策定し、住民・地区・行政で共有することで、地区の復興に向けた取組を進めるものです。

## (2) 復興個別計画の構成

復興個別計画は、大きく「復興」と「復旧」に分け、取組事項等を整理します。

「復興」に関する内容は、令和6年能登半島地震を受けた地区の問題点・課題、これを踏まえた地区の将来像、この実現に向けた取組等について、地区住民が主体のワークショップで検討・協議した内容に基づき、整理します。なお、「復興」の取組については、住民・地区・行政が協働で取り組む必要があるため、下図に示す自助・共助・公助に分け整理します。

「復旧」に関する内容は、行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧の取組内容・位置及び実施スケジュールを整理します。

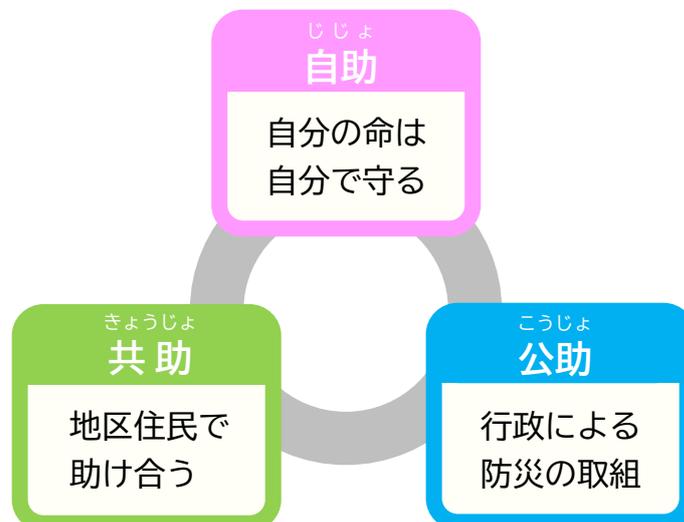


図 自助・共助・公助のイメージ図

## 2 地区の現状と課題

### (1) 地区の現状

#### 【概況】

鹿島路町地区は、中心市街地の北東部に位置し、地区の大半は、山林や水田を中心とした農地です。

七尾市と国道249号やのと里山海道柳田ICを連絡する(主)七尾羽咋線が幹線道路となっています。また、JR七尾線が(主)七尾羽咋線と並走しています。

地区内には、鹿島路会館、松尾会館、下り松会館、宿屋会館を有しています。また、地区内の避難場所及び避難所として「旧鹿島路小学校・運動場」「鹿島路ふれあいセンター」、近隣の避難所として「とき保育園」があります。



①鹿島路会館 ②松尾会館  
③下り松会館 ④宿屋会館

#### 【人口及び世帯数】

鹿島路町地区の総人口は478人、世帯数は203世帯となっています。

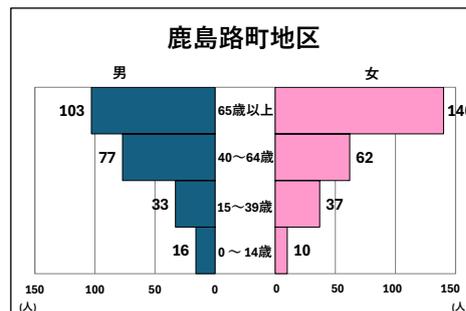
地区の老年人口割合は50.8%となっており、市全域の老年人口割合(41.0%)を上回っています。また、特に15~39歳の生産年齢人口割合(14.6%)が、市全域の割合(19.0%)よりも低くなっています。

今後、さらなる高齢化の進行により、地区のコミュニティ活動の維持等が困難になることが推測されます。

表 鹿島路町地区の人口(年齢4区分別割合)

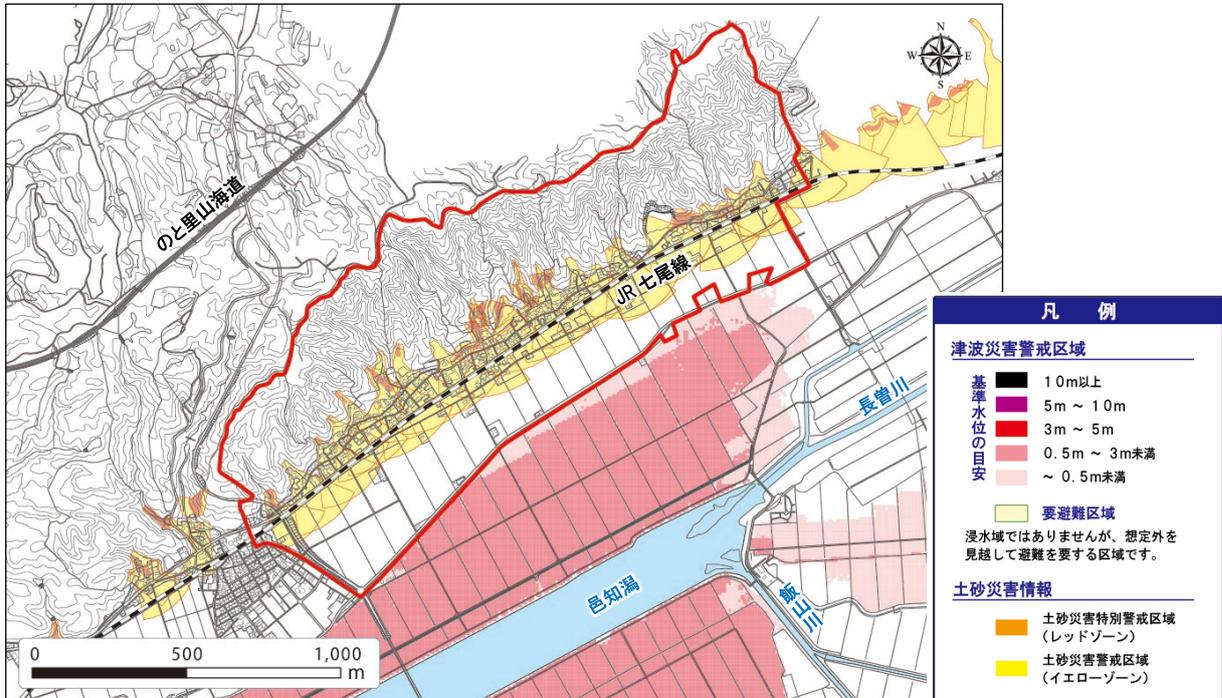
	年少人口	生産年齢人口		老年人口
	0~14歳	15~39歳	40~64歳	65歳以上
鹿島路町地区	5.4%	14.6%	29.1%	50.8%
市全域	8.8%	19.0%	31.2%	41.0%

※令和6年4月1日時点  
資料：住民基本台帳



【各種ハザードの指定状況】

鹿島路町地区は、居住地の大部分が土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域に指定されており、大規模な地震が発生した場合、住家等に大きな被害を及ぼす可能性があります。また、地震による地区の最大震度は6強（一部6弱）が想定されています。

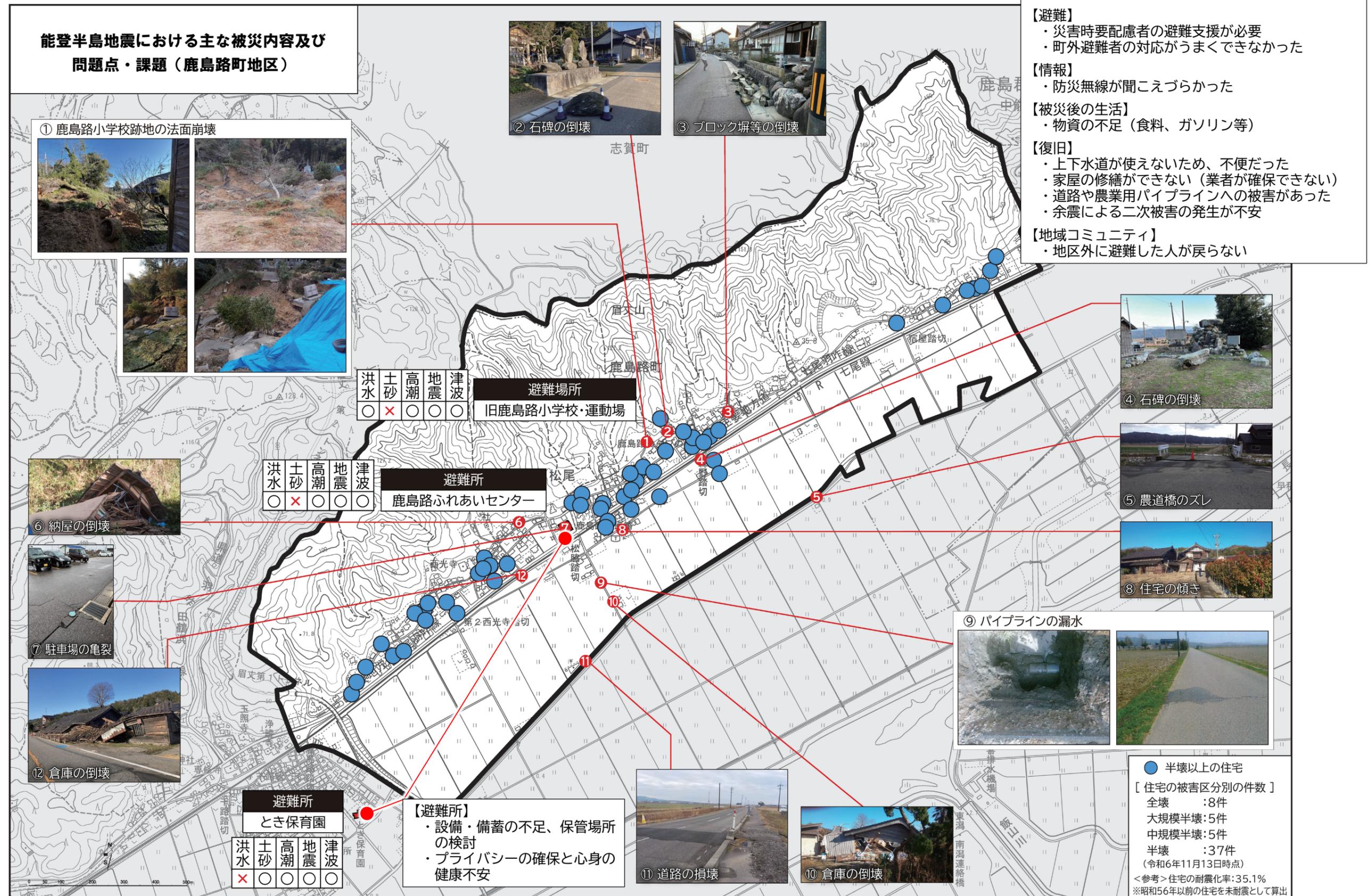


【耐震化率】

昭和56年以前の建物を未耐震として算出した場合（改修済みを除く）の鹿島路町地区内における建物の耐震化率は、35.1%となっています。これは、全国平均の耐震化率（87.0%）を大きく下回っています。上記規模の地震が発生した場合、令和6年能登半島地震（震度5強）よりも甚大な被害となる可能性があります。

(2) 地区の被災状況及び課題

令和7年1月に実施した「第1回 復興個別計画の作成に向けたワークショップ」でのご意見を踏まえた地区の被災状況及び問題点・課題は以下のとおりです。



### 3 復興に向けた取組事項

#### ＜地区の将来像＞

#### 鹿島路の豊かな資源を活用・強化し、 みんなが笑顔で、安全・安心して住み続けられるまち

里山里海の自然環境など、鹿島路の豊かな資源を活用・強化し、活気を取り戻しながら、若い世代の定住や地区外からの回帰・移住を促進し、みんなが笑顔で安全で安心して住み続けられるまちを目指します。

前頁の被災状況及び問題点・課題のほか、鹿島路町地区が独自に「町の復興のために必要なこと」をとりまとめた「実行プロジェクト19」の内容を踏まえ、“取組が必要な事項”“取組内容”“具体的な活動等”を自助・共助・公助ごとに設定します。

“取組内容”については、第2回ワークショップの検討結果に基づき、“◎：最重要取組事項”、“○：重要取組事項”として整理します。また、これ以外の取組として、“・：「実行プロジェクト19」”を整理します。

#### （１）地区の防災力向上

##### 【自助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速・的確な避難行動	◎災害に備えた日頃からの防災訓練	◇防災訓練への参加（参加を徹底するための日程の事前設定など）
//	◎発災時の初動がスムーズに行えるように、避難に関する事前準備	◇防災グッズ・備蓄品（ラジオ、テントなど）の事前準備 ◇ローリングストック（数年ごと）による備蓄品の確保 ◇家庭内での避難時の持ち物の保管場所の指定
住宅の安全対策	○家屋の倒壊に備えた事前準備	◇住宅の耐震化

##### 【共助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
災害時要支援者等の安否確認	◎災害時要配慮者が孤立しないように、近隣住民・組織間の連携強化	◇近隣における高齢者等の把握・名簿の作成 ◇自主防災組織と民生委員の連携

【共助（つづき）】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
避難所の環境改善	◎各避難所に分散した備蓄品の事前準備	◇各避難所に分散した備蓄品の保管（発電機、燃料など） ◇必要に応じた避難者の分散利用（ペット同行避難者が利用できる避難所など） ◇備蓄品の保管場所のスペース・数量の確認（年1回）
〃	・会館等を活用した避難所機能の強化	◇会館等での備蓄品の保管 ◇ペット受入体制・環境の検討
〃	○避難時のプライバシー等を確保するため、避難所の環境整備	◇避難所として利用できる町会施設の設置検討 ◇プライバシー等を確保するテント・テント保管場所の拡充
災害時の生活維持	○災害時の断水に備えた井戸の把握・周知	◇共用できる井戸の声掛け・周知
〃	・被災者の心のケア	◇町会や民生委員等による生活支援体制の整備
〃	・高齢者等の移動手段確保	◇通院や買い物時の移動支援
二次被害の防止	○余震による二次被害を防ぐための危険箇所の確認	◇自主防災組織での定期的な見回り・非常時での見回り強化 ◇未申請被災家屋の把握・共有（一覧表の作成、市への提出）

【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
避難所の環境改善	○避難後における避難者との連絡手段の確保	◇避難所の運営マニュアル等の作成（避難者の安否確認・避難先の確認方法など）
〃	○物資の不足に備えるために、備蓄品の事前準備	◇保管場所を分散した備蓄品の事前準備
迅速・的確な情報の発信	○誰もが確認しやすい防災情報の発信	◇LINE、結ネット <sup>※</sup> 等を活用した情報発信
災害時の生活維持	・被災者の心のケア	◇地域へのカウンセラー等の派遣

※自治会・町内会をはじめとする地域組織や各種団体の日々の活動・運営を支援するアプリであり、普段は回覧情報や連絡事項の提供ツールとして、災害時には安否確認ツールとして活用可能

## （２）ハード面の機能強化等

### 【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
避難所の環境改善	◎避難所の環境整備	◇電源設備（可搬型、ポータブルなど）の設置 ◇備蓄倉庫等の設置（備蓄品の保管、避難所運営への活用など） ◇備蓄品（水、食料品など）の保管 ◇冷暖房設備の検討、段ボールベッド、仕切りテント、トイレの確保
〃	・防災公園の整備	◇地域の憩いの場を兼ねた防災公園の整備検討
住環境の維持	◎インフラ・公共施設の整備・強靱化	◇断水に対応できる公民館のインフラの強靱化 ◇農業用施設・排水路の改修 ◇邑知潟・河川の護岸整備 ◇道路亀裂の補修（北潟農免道路、踏切など）

### （３）将来を見据えたまちづくり

#### 【自助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
住環境の維持	・地区外に避難した人の回帰に向けた取組の推進	◇羽咋市空き家情報バンクの活用

#### 【共助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
住環境の維持	○地区外に避難した人の回帰に向けた取組の推進	◇空き家のリノベーションによる避難者・移住者を受け入れる環境整備 ◇戻りやすい雰囲気づくり ◇地区代表等による小まめな連絡
〃	○災害後の地域コミュニティを維持するための取組の推進	◇活気ある地区のまつりや行事の開催・復活 ◇公民館行事への積極的な呼びかけ ◇地区における団体等の連携強化・担い手づくり（町会、公民館、自主防災組織など） ◇地域資源の活用・特産品づくり（寒ブナ、米、イモ、チャレンジショップなど）
自然環境の活用	・総山の活用	◇総山における資源の活用（薪・赤土の活用、椎茸のホダ木づくり等）
〃	・邑知潟の活用	◇邑知潟の活用（寒ブナ漁体験等）

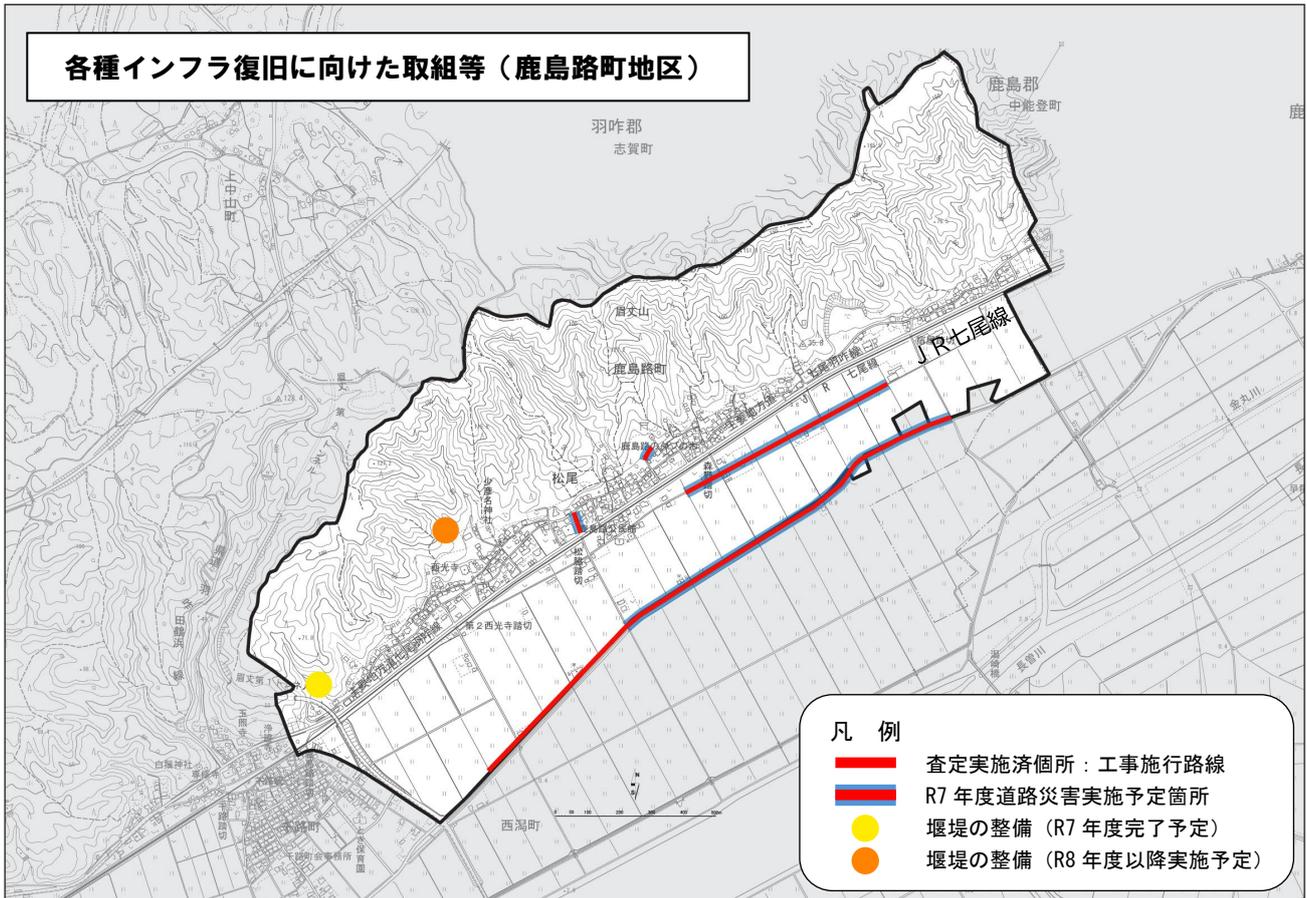
#### 【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
住環境の維持	○地区外に避難した人の回帰に向けた取組の推進	◇Uターン移住者等の受入促進（空き家の活用など） ◇ふるさと回帰の拠点づくりの検討
自然環境の活用	・総山の活用	◇総山の整備要望

## 4 各種インフラ復旧に向けた取組等

行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧に向けた取組内容・位置及び実施スケジュールは以下のとおりです。

なお、取組内容等については、状況に応じて随時見直し・修正していきます。

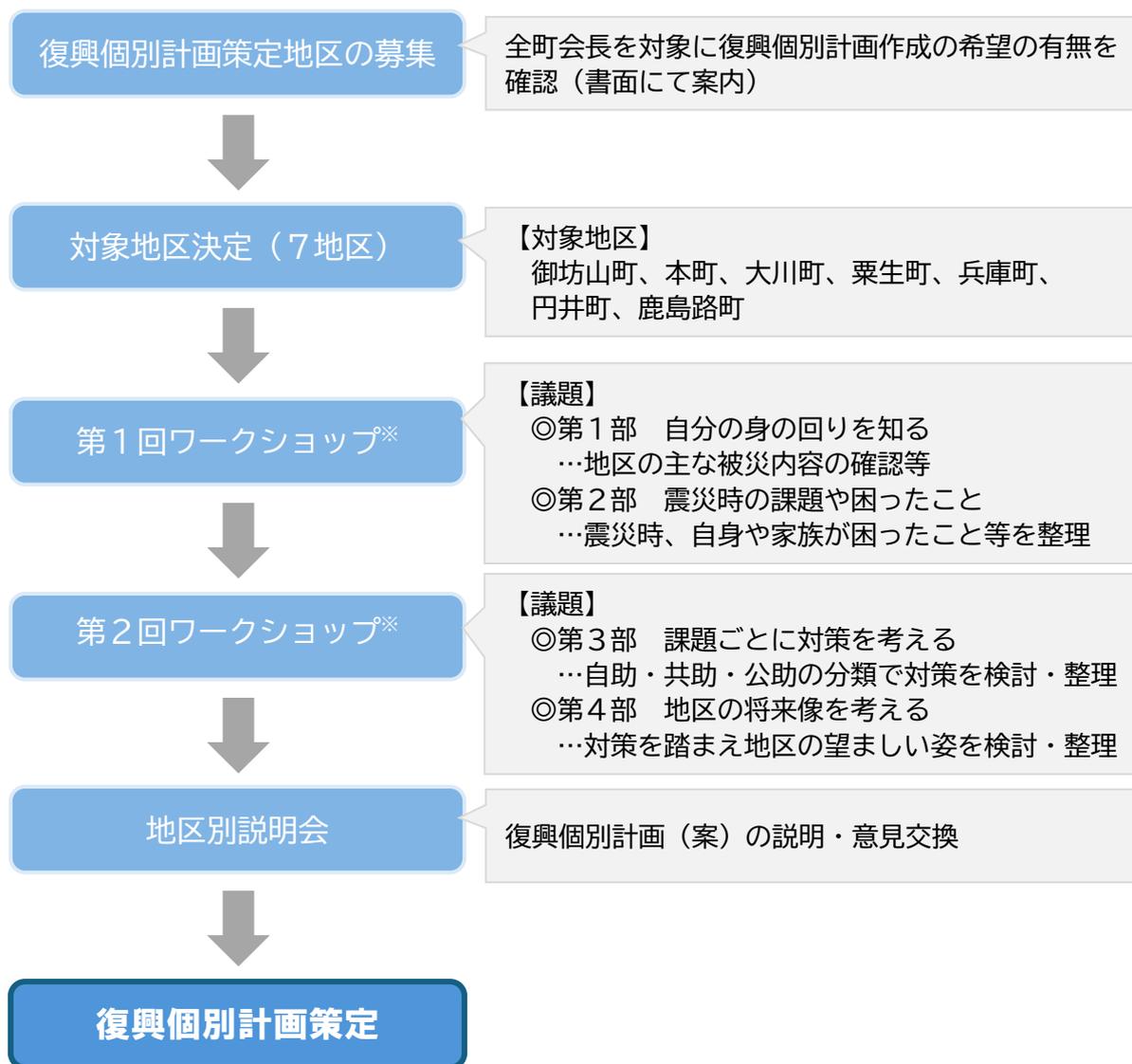


取組内容	R5年度 (R6.1~)	R6年度	R7年度	R8年度~
① 公共災道路 公共災害復旧事業 (道路災 3件)	被災状況調査 応急復旧工事 (主にアスファルト舗装) 災害査定準備	国の災害査定1件 (12月末済) 測量・実施設計	本復旧工事 (2件) 本復旧工事 (1件:市道102号)	復旧完了目標 復旧完了目標
② 市単災道路 市単災害復旧事業 (道路災 1件)	被災状況調査 (下水道事業との調整) 応急復旧工事 (主にアスファルト舗装)	測量・実施設計	本復旧工事 (1件)	復旧完了目標
③ 旧小学校跡地復旧 災害復旧事業 (法面復旧 1件)	被災状況調査 応急復旧工事	測量・実施設計 本復旧工事 (1件)	復旧完了目標	
④ 堰堤の整備 (2件)			工事(1件)	工事予定(1件)

## 5 資料編

### (1) 復興個別計画策定手順

復興個別計画の策定は、以下の手順で実施しました。



※ワークショップの概要・進め方

- 1グループあたり5名程度を基本に2～3グループで実施
- 各グループには市職員も配置
- テーマに応じて個人の意見等を付箋に書き出し、グループ内で意見交換をしながら共有・とりまとめ
- 各回、グループでのとりまとめ結果を代表者より発表し、意見を共有

## (2) ワークショップ実施概要

### ■第1回

【開催日】令和7年1月29日(水) 19:00~20:30

【場所】鹿島路公民館

【参加者】町会長及び地区住民 計16人

【議題】第1部 (現状把握) 自分の身の回りを知る  
第2部 (現状把握) 震災時の課題や困ったこと



ワークショップの様子

### 【主な意見(震災時の課題や困ったこと)】

項目	課題・困ったこと	項目	課題・困ったこと
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災マニュアルの共有と防災訓練の必要性</li> <li>自主防災組織が配布した安否確認タオルを活用できなかった</li> <li>電気が止まった時の備え</li> </ul>	被災後の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>物資の不足(食料、ガソリン等)</li> <li>高齢者へのフォロー</li> <li>事業者へのフォロー</li> <li>ストレスや不安、心のケアと相談体制が必要</li> </ul>
避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の渋滞</li> <li>災害時要配慮者への避難支援</li> <li>町外避難者への対応</li> </ul>	ハード整備 ・復旧	<ul style="list-style-type: none"> <li>上下水道が使えない</li> <li>防災倉庫が使えなかった</li> <li>家屋の修繕(業者が確保できない)</li> <li>危険空き家の対応</li> <li>発災直後の倒壊していないところの再確認</li> <li>ブロック塀や石碑の倒壊</li> <li>道路の被害</li> <li>農業用パイプラインのパンク</li> <li>地すべり、がけ崩れの発生</li> <li>余震による2次被害の発生</li> </ul>
避難所	<ul style="list-style-type: none"> <li>備蓄、設備不足、保管場所の検討</li> <li>避難所の駐車場が狭い</li> <li>災害時要配慮者へのケア</li> <li>プライベート確保と心身の健康不安</li> <li>ペットの受け入れ体制</li> </ul>		
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>安否や避難状況の確認</li> <li>防災無線が聞こえづらい</li> <li>火事場泥棒への対応</li> </ul>	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区外に避難した人が戻らない</li> </ul>

■第2回

【開催日】令和7年2月18日（火） 19:00~21:15

【場所】鹿島路公民館

【参加者】町会長及び地区住民 計15人

【議題】第3部（対応協議）課題ごとに対策を考える

第4部（将来展望）地区の将来像を考える



ワークショップの様子

【地区の将来像案】

フレーズ：鹿島時の資源を活用・強化して活気を取りもどす！/  
 みんなが笑顔で安全・安心に回帰する・移住できる・住み続けられるまち！  
 キーワード：安心して暮らせるまち／若い世代が定着／人家裏の森林整備と資源の有効活用／移住者が増えるまち／豊かな自然を活用／里山里海

【主な対策】

自助	最重要対策	各自で防災グッズを準備／自主防災訓練の日時を設定／防災備蓄を家族で持ち出せる場所に準備
	重要対策	情報収集用のラジオ等の準備／井戸をみんなで使用できるように声掛け／住宅の耐震化、地震保険への加入
共助	最重要対策	自主防災組織による避難訓練／自主防災組織と民生委員の連携強化／発電機、燃料等の準備／避難所の分散配置
	重要対策	避難所（町の会館）を増やす／自主防災組織の定期的な見回り、非常時の取組強化／公民館行事への積極的な参加呼びかけ／地域の連携強化と担い手づくり／空き家をリノベーションして、避難者や移住者を受け入れる／地域資源の活用、特産品づくり
公助	最重要対策	公民館のインフラ強靱化／プレハブやトレーラーハウスをペット用の避難所又は備蓄所に活用／避難所の充実（自家発電機等）／災害公営住宅の建設
	重要対策	避難所運営マニュアル等の作成／防災備蓄の保管場所の分散配置／防災無線の個別装置整備／防災無線を増やす

### （３）鹿島路町地区 “実行プロジェクト 19”

鹿島路町地区では、令和6年能登半島地震を受け、復旧・復興に向けた住民アンケート・地区独自の計画づくりを行っています。（以下はその抜粋）

町民アンケート	課題（強みと弱み）	実行プロジェクト19
被災者支援（58%） 高齢者・障がい者支援（59%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震被害者の生活支援、心のケア（公的支援と地域の支えあい）の利用支援</li> <li>避難者のふるさと回帰支援（公営住宅、リノベ空き家をみなし住宅に）</li> <li>通院、買い物の移動支援。地域の見守り、支えあい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活支援体制と心のケア（町会、民生委員、アップル支援隊と市による体制づくり）</li> <li>②ふるさと回帰等の拠点づくり（公営住宅、市の支援と連携によるリノベ空き家をみなし住宅に。その後、地域型空き家バンクにより運営。高齢者の見守り住宅としての活用も。）</li> <li>③通院・買い物難民の移動支援（住民運行等）</li> </ul>
復興の拠点づくり（29%） 各区の会館整備（36%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西に長い地形から、住民が集い避難所を兼ねた防災公園（親子、家族、高齢者、ペット、防災倉庫も）</li> <li>各区の会館を被災者の避難所に改修（トイレ、水回り、空調等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④憩いの場を兼ねた防災公園に整備（バス停やチャレンジショップ、遊具や憩いの場、ドッグラン、防災倉庫等。万が一に備え地盛。）</li> <li>⑤各区の会館を改修し避難所機能（トイレ、水回り、空調と耐震化等）を持たせる。</li> </ul>
地域の間関係づくり（39%） 担い手、人材の育成（51%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>町会、公民館活動や地域活動の多様化（世代間交流、支えあいの促進）</li> <li>担い手、人材育成（Uターン、移住促進、地域おこし協力隊、外部専門家支援、2地域居住、関係人口拡大）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥町会・公民館・地域活動の連携（町会の部会活動、公民館の世代間交流、アップル支援隊による支えあい等）による関係づくり</li> <li>⑦Uターン、移住、2地域居住による流入促進（リノベ住宅貸出、体験ツアー、後継者育成）</li> </ul>
豊かな自然の利活用（30%） 将来の発展魅力づくり（26%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>総山の活用（森林整備と資源活用）</li> <li>空き用地、農地活用（イモ、米）</li> <li>邑知潟の活用（寒鮎、白鳥、朱鷺）</li> <li>特産品開発（チャレンジショップ）</li> <li>空き家BK活用（移住体験ツアー等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧総山の森林整備と資源化（公的整備）</li> <li>⑨空き地、農地の活用と近代化（イモ、米等）</li> <li>⑩邑知潟の活用（寒鮎体験、販売、ツアー）</li> <li>⑪特産品開発（イモ、蜂蜜、林檎、米、寒鮎、総山資源等で。チャレンジショップを拠点）</li> <li>⑫町内空き家BK活用（リノベ住宅、体験ツアー）</li> </ul>
災害対策（ハード）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆被害（リスクマップ）</li> <li>堰堤（脇の谷内、河原谷川、窪谷、不動谷川）</li> <li>道路・河川等（北潟農免ポンプ横断段差、ふれあい踏切下。能登神社横河川。旧小崩落がけ。）</li> <li>被災家屋（未申請家屋、老朽空き家）</li> <li>避難所（公民館ホール空調、断水対策WC）</li> <li>住宅の耐震化（診断と耐震工事）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑬堰堤整備・整備（窪谷：宿屋）</li> <li>⑭道路（ふれあい踏切下、北潟農免陥没段差河川（能登神社横大谷内川）。旧小がけ崩落（復旧と周辺家屋の安全確保）</li> <li>⑮未申請被災家屋対策（市にリスト提出）</li> <li>⑯避難所（公民館インフラ強靱化（上下水、電源）</li> <li>⑰未耐震住宅の耐震化工事の促進</li> </ul>
災害対策（ソフト）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災組織（訓練、安否確認、見守り）</li> <li>避難所（備蓄品、段ボールベッド、テント）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑱自主防災組織と市の連携体制強化（訓練、安否確認、災害発生時の連絡体制）</li> <li>⑲避難所装備の充実（備蓄品、災害備品）</li> </ul>